



# 童話

小野直

## 王様のお池

あのね、お池の大きな葉っぱの上に、お父ちゃん蛙と、お母ちゃん蛙と、お兄ちゃん蛙と、赤ちゃん蛙と、おすわりしてゐたの。

お兄ちゃん蛙がね、お池の中に「とぶん」と、飛びこんで、ちやぶく／＼と、およいで向ふの大きな葉っぱの上に、ちよこんとおすわりしたの。

こんどはね、赤ちゃん蛙がね、「とぶん」(前より

小さい聲)と、飛びこんで、ちやぶく／＼(前より小さい聲)と、およいで向ふの大きな葉っぱの上に、ちよこん(前よりも小さく)と、おすわりしたの、お兄ちゃん蛙のおとなりね。

そしたらね、お母ちゃん蛙が、「とぶん」(前二つより大きい聲)、と飛びこんで、ちやぶく／＼(前より大きく)と、およいで、向の大きな葉っぱの上に、どしんとおすわりしたの、お兄ちゃん蛙のおとなりの、赤ちゃん蛙のおとなりにね。

こんどはね、お父ちゃん蛙が、大きいお目目をして、お池の中に、どぶ！ん(前よりも更らに大きく)と、飛びこんだの。そしてね、どぶん／＼と、泳いでね向ふの葉っぱの上に、お兄ちゃん蛙のおとなりの、赤ちゃん蛙のおとなりの、お母ちゃん蛙のおとなりにね。どし！ん(大きく、力を入れて)と、おすわりしたの。

## 蛇の卵

そしたらね。あんまり、(氣を入れて)お父ちゃん蛙が元氣よくあすわりしたのでね。葉っぱが、破れて皆大さわぎをしてお池に落ちこんぢやつたの。大いそぎ／＼で向ふの葉っぱの上にお行儀よくあすわりしたの。

「まあ、面白かつたわね。」

といつて皆んなで笑つたの。

このお池は、どこのお池、王様のお池なの。王様が、あははとお笑ひになつたの。

今度は、お父ちゃん蛙もお母ちゃん蛙も、お兄ちゃん蛙も、おちやん蛙も、ちよこんとおじぎをして、皆で一しよに、あははは」と笑つたの。

あかしいわね、おほほほほ、おしまひ。

注 意

(最も、幼児のよるこぶ語、繰返へされる言葉の、音の高さ、長さをよく加減すること)

おぢいさんは、たつた一人のひとりぼつちなのです。お山に柴刈に行くのも一人、町にお買物に行くのも一人、御飯の時も一人、お掃除をするのも一人なのです。おばあさんもなければ、子供もありません。面白い時に一しよに笑ふお友達もありません。ほんとは、ひとりぼつちのさびしいことです。

ところが、ある時、この一人ぼつちのおぢいさんのお家に、鳩が一羽あはてて飛込んで来て、「あゝ助けて下さい。おぢいさん。おぢいさん。大變なんです。私は大怪我をさせられました。そして、見つかると殺されるのです。ねえ、おぢいさん。おぢいさん。」といひました。

おぢいさんは、そつと、鳩を抱上げて身體をしらべて見ますと、大怪我をして兩方の羽がぶらぶ